

早稲田大学人間科学学術院と 包括連携協定締結



【学術院長】
協定を結ぶにあたって、かねてからの付き合いが大切であると思っています。実のある連携が定期的に行われ、どちらか一方が無理をするのではなく、「ウィン・ウィン」の関係で連携していきたいですね。

【町長】
このたびは、早稲田大学人間科学学術院と、包括連携協定締結の日を迎えられたことを大変光栄に思っています。連携、協力することで、それぞれの発展につながることを確信しています。

互恵の精神に基づいた協定を

5月22日(水)、早稲田大学所沢キャンパスにて、皆野町と早稲田大学人間科学学術院との包括連携協定を締結しました。町の地域活性化、教育活動、研究事業や学生交流など、さまざまな角度から連携していきます。締結式後に行われた石木戸町長と藤本学術院長による対談の様子を紹介します。

お互いの資源を最大限に生かしていく

【学術院長】
皆野町が重点的に取り組んでいることはどのようなことですか。

【町長】
スポーツの推進や無料の健康診査の実施など「健康長寿」の町づくりを力を入れています。そのほかにも幼稚園からの英語教育、県立高校と連携した教育環境の充実など、学力向上、グローバルな人材の育成にも取り組んでいます。

【学術院長】
学生との活動も重要ですね。

【町長】
有害鳥獣害対策の一環としてジビエ肉を活用した特産品を町と高校が協力して開発しています。

【学術院長】
高校生にとって社会を知るにはいい教育の場になりますね。

私たちもさまざまな研究をしています。連携の中で町の実社会をフィールドに成果を反映させていければありがたいと考えています。皆さんからの知恵助言により、地に足の着いた研究となるよう、取り組んでいきたいと思っています。



【町長】
協力していく分野は教育、健康づくり、地域での活動など多様な展開が期待できます。

町では伝統芸能も盛んに行われています。学生の皆さんにぜひ体験してもらいたいと思います。

【学術院長】
留学生だけでなく、日本人の学生にとっても自国文化への理解を深めることになりそうです。



石木戸町長(右)と藤本学術院長(左)

これまでの早稲田大学人間科学学術院との交流

平成24年から三沢地区において、地域活性化を目指し、多世代、多文化の交流が行われています。



第50回秩父音頭まつりに参加



三沢小学校での収穫祭



留学生のうどん作り体験